

○大覺寺 大澤池の西に在り眞言宗にして舊宮御門跡なり 嵯峨天皇離宮を此地に營し給ふ嵯峨院と稱す 崩御の後漸く荒敗に就く 淳和天皇之を修め改めて 精舎と爲し第二皇子恒寂親王をして始祖と爲さしめ給ふ親王初名は恒貞九歳にして皇太子に立つ承和九年變に依て諸位を辭し降りて親王と爲り尋て僧と爲り具足戒を受け兩部の密法をも受け仁和元年九月十日結跏趺坐して薨す年六十爾來代々法親王の住職と爲る本堂五大尊は弘法大師の作什寶の内俊乘坊將來の五祖像に純然たる唐畫なり聖德太子柄香爐を持し侍者寶蓋を翳す圖は八百年前の物なり羅生門の札長一尺三寸厚二寸文字缺損す御家書流なり 光孝帝 宇多帝恒寂親王の三御影は衣冠嚴然たる尊容なり五大尊の影は五方の配色衣紋の色にて分てり空海時代の畫なり

○嵯峨天皇陵 傳に嵯峨山上陵といへり即ち大覺寺の北御廟山の上なり

○後宇多天皇陵 傳に蓮華峰寺陵といへり即ち大覺寺の東北山麓なり

○五臺山清涼寺 上嵯峨大覺寺より三町西に在り方丈は淨土宗塔頭は眞言宗なり大覺寺に屬す本尊釋迦佛は赤樹檀の瑞像と稱し印度毘首羯摩の作長五尺二寸姚秦の時漢土に渡る 一條帝御宇永延元年東大寺の僧然宋に入り此像を得て歸り堂を建て之を安する者なり阿彌陀堂あり棲霞觀と號す昔源融大臣の山莊なりしを後捨て寺となしたるなり彌陀は坐像にして長五尺二寸寺傳鳥佛師の作といふ傑作なり毘沙門の立像長六尺千二百年代の物なり寺傳弘法の作と云ふ脚下の鳩盤茶は塑像なり

○京極定家卿古跡 清涼寺より西二町許中院町と云ふ所に在り竹林の北に厭離庵といへるあり是定家の小倉山莊時雨亭の古跡なり爲家卿も此に住せし故に中院大納言と稱せり今は荒敗せる尼寺となれり 定家爲家墓 厭離庵の門外より少南に折れ田圃の中に在り

○往生院跡 中院町の西小倉山の麓に在り淨土宗の尼院ありしが明治一新の際廢却したり此地に平相國清盛の寵姬祇王祇女佛刀自四人の塔あり

○新田義貞碑 右同所に在り新田公は延元三年七月越

前國藤島に於て戰死す其首を傳へて京都に至る足利氏の君臣相慶びて之を梟す公の夫人勾當内侍其首を請ひ之を往生院に葬り髪を剪り尼と爲り往生院に住し公の冥福を修す自ら小祠を塚上に立て之を祭る此事黒川道祐が西山記事に載せたりといふ小祠年を経荒壞す近頃公に仕へたる渡某の後裔渡忠秋之を再造し且碑を建んと欲して果さずして没す富岡鐵齋其志を繼ぎ府知事北垣氏に説き協力して碑始て成る碑文は谷鐵臣の撰なり時明治二十七年六月なり

○後龜山天皇陵 傳に小倉陵といへり愛宕道小坂に在り

○清瀧川 愛宕山下に在り源は小野郷より出で中河村を経て高雄愛宕の麓を廻り末は大井川に入る

○愛宕神社 愛宕山の頂に在り府社なり祭神は伊弉册尊と火産靈尊とにして雷神と破無神とを合祀す末社に太郎坊の社 飯綱社子 守勝手 社八天狗 社春日社十二天社等あり例祭は陰曆四月中の亥日にして神輿二基あり一鳥居より本社まで坂路五十町あり然れども寒暑を厭はずして詣人毎に夥し

○鎌倉山月輪寺 愛宕神社鐵鳥居より東へ下る十三町

の所に在り天台眞言二宗兼學なり開山は慶俊僧都天應元年に草創す本尊は十一面觀音なり祖師堂に空也親鸞九條兼實公の三像を安す兼實公は此地に閑居して之を中興せり空也は此に居て龍女に逢ひ請ふて清泉を湧さしむ龍女水是なり親鸞は北國に赴く時兼實公別れを惜む親鸞乃ち自作の像を遺せり寒蟬瀧は龍女の顯れし處といふ西南十町許の所に在り

○水尾山寺 愛宕一鳥居より左へ五十町の處に在り清和天皇遊幸し給ふ處にして古は堂宇完備なりし今纔かに跡を存し木食念佛の者多く之に居るといふ

○清和天皇陵 傳に水尾陵といへり水尾村の西南山腹に在り

○小倉山華臺寺二尊教院 上嵯峨小倉山に在り天台眞言戒律淨土の四宗を兼學す本尊は釋迦彌陀の二尊なり嵯峨天皇芹河野行幸の時此勝地を御覽じて開かせ華臺寺を建させ給ふ元久年中正信房湛空法然を請ふて住せしめ天台眞言戒律の外に淨土を加ふ湛空は徳大寺左大臣實能公の男なり念佛堂に法然の像を安す小倉山の額は 後柏原帝の宸筆なり二尊教院の額は 後奈良帝の宸筆なり什寶の内に足曳御影と稱す

る法然の像あり宅磨澄賀の筆なり丹輪關白源空を信
 仰し一日源空を請し浴せしむ源空浴を出で休息の状
 殊勝なるを見て側に在りし法眼澄賀をして其相をら
 さしむ安坐して一足を出せり源空後之を見て姿體の
 正しからざるを恨み像に向ひ持念せしかば其足自寫
 消じて端坐の状となるといふ今は古色深黒辨じ難し
 又源空七箇條の告戒を書し其後に自ら署名し次で徒
 弟百八十九人の署名したる連判状様の巻物あり此中
 に熊谷蓮生坊も見ゆ珍什と稱すべし其他は之を畧す
 伊藤仁齋墓 寺後の山下に在り同東涯并に同家一門
 の墓あり仁齋及び東涯の事は諸人知る所なり之を記
 す

○常寂寺 二尊院の南二町許に在り日蓮宗本園寺
 に屬す開基は日禎本尊は釋迦多寶の二佛なり境内に
 定家卿の社あり什物に車琴と稱する名琴あり 高倉
 帝の小督局に賜ひし物にして後中納言秀秋の手に落
 たるを此寺に納付したり

○野宮 常寂寺の東南に在り天照大神を祭り悠紀主
 基の兩宮あり古昔伊勢齋宮に移住し給へる内親王此
 處に於て三年潔齋し給ひし遺跡なり黒木の鳥居小芝

牆等 古の遺風なり

○欽忠碑 天龍寺門前寶篋院跡に在り楠正行の首
 塚ある所なり寶篋院は天龍寺塔頭なりしが一新の初
 め廢却したり此院の開基默庵禪師諸國行脚の時楠
 正行と相識れり貞和五年正行が河内四條畷に出陣す
 をさへ陣營に往きて相訪ふ正行禪に參して曰く白雲
 峯に立つと禪師答へて雷電雲を切ると云はれければ
 正行再拜す莞爾として曰く明日の戦ひは必定討死の
 覺悟なり願くば竊かに吾首を貴院に葬り給へと默庵
 之を諾す翌日果して足利の兵と四條畷に激戦し一族
 郎黨悉く討死す默庵其遺言に違はず竊かに其首を
 法衣に包みて歸り此院に葬る其後足利二代將軍も亦
 默庵を信す一日談正行首塚のことに及ぶ義詮愁然と
 して容を改めて楠家の一族は吾家の怨敵なりと雖も
 南朝の忠臣と謂ふべし吾死せし後墓碑を正行の墓側
 に建つべしといへり義詮北朝貞治六年丁未十二月七
 日薨す亦遺命の如く正行の首塚の傍に遺骸を葬る
 世に之を識る者無し府知事北垣國道深く此事を慨し
 爲めに碑を立て名づけて欽忠碑と謂ふ文は從五位谷
 鐵臣の撰なり是往生院新田公の首塚と好一對の美譽
 なり

○龜龜山天龍資聖禪寺 下嵯峨に在り禪宗臨濟派の本寺にして五山第一なり開山夢窓名は疏石伊勢の人十八歳慈観律師に就て具足戒を受け三年の間顯密の教を研究すも雖も大道を發明するに足らざるを看破し是に於て道場を設け百日を期して佛聖の指示を祈る期滿の後夢に一僧來り窓を開き相引て一寺に至る寺を疎山といふ又一寺に至る寺を石頭といふ一老僧あり一卷軸を授く披き見れば達磨大師の像なり是に於て志を禪に決し初め名は智隱改めて疎石と云ひ夢窓と號す鎌倉建長寺の顯日に參す機縁契合して遂に其嗣と爲る 後醍醐天皇崇敬し給ひ國師を賜ひ夢窓國師と稱す觀應二年九月三十日寂す年七十七北朝の天子代々號を賜ふ生前と死後と併せて七代なり世に七朝國師といふ足利尊氏此寺を建て夢窓を請して開山と爲し以て 後醍醐天皇の冥福を修する所とす往昔は伽藍完備せしも數度の回祿に逢ひ礎石のみ多し

○後嵯峨天皇陵 傳に法華堂陵といへり今は天龍寺雲居庵の東に在り

○龜山天皇陵 前の陵と同所に在り

○大井川 源は北丹波より流れて水尾河清瀧河に落合

ひ嵐山の麓を経て末は梅津村桂村の東を流れて淀川に入る

渡月橋 一名御幸橋といふ三軒屋の下方より法輪寺に達する者

千鳥ヶ淵 南岸三町許 上流に在り昔建禮門院の侍女横笛身を投げし處といふ

○嵐山 大井川の上に在りて山勢秀拔林樹稠疊たり上古は紅葉の勝地たりしが 龜山天皇吉野の櫻を移植させ給ひしより専ら櫻花の名を擅まゝにす麓には大井川の清流を繞らし言ふべからざる景致あり春は櫻花に宜し夏は綠樹に宜し秋は紅葉に宜し冬は雪見に宜し外國人迄も凡そ京都に來る者必ず一日は嵐山に向ふて車を飛し杖を曳かざるなし

大悲閣 麓より登るべし五六町許に在り本名は金峯寺なり黄檗山萬福寺に屬す本尊千手觀音は惠心の作なり角倉了以の建つる所にして閣前に磧あり文は林羅山の撰する所なり了以名は光好通稱與七性工役を嗜み慶長九年徳川家康に請ひ大井川を疏通して丹波保津に至り初めて舟を通す宅を河邊に造り子玄之をして嗣がしむ其後富士川を疏し天龍川通じ高瀬川を

穿つ其効績偉大なり慶長十九年七月十二日に没す年

六十一

温泉 大悲閣の西北山麓に在り泉質炭酸を含有し慢
性僕麻質私に宜しといふ慶應年間より初めて湧出す

標谷神社 山麓に在り松尾の末社なり

戸難瀬瀧 標谷の西に在り大井川一名戸難瀬川とい

ふ瀧上に淺黄櫻の巨樹あり

坐禪石 山腹に在り夢窓國師の遺跡なり

古城跡 細川政元の家臣香西元近の城趾なり山嶺に

在り

○智福山法輪寺 渡月橋の南に在り三論宗眞言宗を兼

學す開基詳ならず中興は道昌僧都なり天平年中草

創高井寺と號す貞觀六年道昌中興して今の名に改

む本尊は虚空藏佛坐像長二尺五寸脇士は明星天兩寶

童子なり道昌姓は秦氏讚岐の人空海に密法を受け求

聞持の法を修せんとて一日此寺に參籠す或る曉關

伽の水を汲まんとするに光炎頓に輝きて明星天子衣

袖の上に来影し忽ち虚空藏佛を現す縫ふが如く染る

が如く日を経るとも滅せず道昌感異し其像を刻み衣

袖の像を以て之を腹内に收む像既に成る空海を請し

て開眼導師と爲す是當時の本尊なり

○臨川寺 大井川の北畔に在り天龍寺の附屬にして亦

龜龜山と稱す舊 龜山法皇の仙居にして 後醍醐天

皇第二の皇子世良親王の別莊なりしが親王薨去の後

遺命を以て寺と爲し夢窓國師に付す本尊に彌勒佛を

安じて三會院と號し東偏に親王の廟を構へ西偏に夢

窓の塔を建つ遺骨を收めたる所なり傍に塔銘と碑銘

とあり塔銘は元の僧東陵永興の撰なり碑銘は明の學

士宋景濂の撰なり

○車折神社 下嵯峨材木町に在り祭神は大外記明經博

士清原頼業なり博士は左大臣夏野公の裔にして大外

記祐隆の子なり文治五年に卒す年六十八子孫祠を建

て之を祀る昔此所を車に乗て過ぐる者あり車忽ち折

けり 後嵯峨天皇號を賜ひて車折大明神と云ふ

○鹿王院 材木町の南に在り天龍寺の塔頭なり足利義

滿の草創普明國師の開基なり佛殿に佛牙舍利を安す

此舍利は 源實朝が巨額の資を宋國に送りて求得た

る者にして之を圓覺寺に置く 後光嚴帝之を拜せん

と思召され普明國師に此旨を鎌倉に達せしめ給ふ此

時竟に舍利を獻し奉る後又之を普明に賜ふといふ

葛野郡

南部

○松尾神社 上山田村松尾山下に在り官幣大社なり祭神は大山咋神と市杵島姫神と二座なり大寶元年に秦都理といふ人社を建て分土山より遷し奉ると古記に見たり松尾七社とて一松尾社二月讀社三樫谷社四三の宮五宗像社六衣手社七四大神をいふ例祭は陰曆四月上酉日なり承和四年より始まる神興七基西七條村の御旅所より桂川を舟渡して祭禮を行ふ

○月讀神社 松尾の南二町に在り松尾七社の内なり祭神は月讀神なり日本紀顯宗天皇三年に山背國葛野郡歌荒巢田十五町を獻し以て月讀神の地と爲すとあれは松尾より二百年許以前の社なり又齊衡三年三月に月讀社を松尾の南に遷すよし三代實錄に出たり

○西芳寺 松尾の西南三町許に在り禪宗天龍寺に屬す開基は行基僧正にして中興は夢窓國師なり聖德太子作の彌陀を安す昔平城天皇の皇子眞如親王之に居り又五百年を経て荒廢せしを藤原親秀再興し夢窓を迎へて住せしむ夢窓奇水珍石を聚め庭池を造り亭舎を營む佳勝の地なり

○地藏院 西芳寺の南に在り禪宗天龍寺に屬す細川頼之の建立にして宗鏡禪師碧潭を開山とす本堂に地藏を安し及び頼之東帶の像あり又童子手に扇を持ち舞踏する像あり頼之が刻ませたる者といふ堂の南に頼之の墓あり堂の前に同人の石碑あり是は近年建る所にして碑文は細川潤次郎氏書は長岡護美男なり二人は頼之の遠孫なればなり

○葉室山淨住寺 谷村に在り黃檗萬福寺に屬す開基は興正菩薩觀尊なり葉室中納言入道定然之を建て觀尊を延て住せしめし所なり後廢すること久し元祿年間鐵牛和尚之を再興す

○大枝坂 檜原の西一里に在り山城丹波の國界にて峻坂なりしを維新後山麓を開鑿して一町餘の隧道を貫通し車馬も平易に往來し旅客汗を絞ること免かる
峠地藏 大福寺と號す峠に在り昔惠心僧都此處に於て一女の幽靈に遇ふ問へば乃ち難産に罹りて落命したる者なりと云ふ且冥途の苦患を救ひ給へといふ僧都法義を説き示す女既に苦患を脱せり願くは地藏尊を刻み此處に安置し後來吾と同一難産に罹り死する者を救ひ給へといひ終りて形滅す僧都彼女の塚に生

したる栢を樹伐り地藏像を刻み堂を建て之を安寺今の本尊是なり

○本願寺掛所 河島村に在り西山御坊と稱す舊名は久遠寺なり開基は親鸞三世覺如上人なり本堂に安阿彌作の彌陀を安す覺如の塔は堂後に在り此處に木造の假面ありケチケチの面と稱す村内に災ある時はケチケチと鳴て之を告ぐ

○桂川 并橋 川は大井川の下流なり橋は下桂村と川勝寺村との間に在り丹波道なり又北に上野橋あり南に鐵橋あり東海鐵道の線路なり

○桂離宮 桂川の西岸に在り四方凡三町なり亭館五棟あり園池寛濶にして尤も幽趣を極む昔豊臣秀吉千利休に命じて之を造らしめて桂宮智仁親王の別業に備ふ以來桂宮歴世之を傳領せらる一新後明治十六年より宮内省の管轄と爲り離宮に充てらる

○紙漉場 梅津村に在り桂川の水力を以て機械を運轉し紙を製する所なり明治九年に創立しパピールアアリクと稱す京都府下に機械を以て紙を製作するは是を始めとす

○梅宮神社 西梅津に在り官幣中社なり祭神は酒解神

太若子神小若子神酒解子神の四座なり相殿には橋曆太政大臣清友公と檀林皇后嘉智子とを祭る檀林皇后子無さを愛ひ酒解神に祈り給ふ果して妊娠ありて仁明天皇を産し給ふ今も婦人産月に臨めば此社の砂を取て佩ぶる其縁由なり

○大梅山長福寺 東梅津に在り禪宗南禪寺に屬す原は天台宗にして眞理と云へる尼僧の草創なり曆應二年臣長梅津清景大幢國師を迎へて開山と爲し革めて禪宗と爲す國師名は道敏字は月林久我中納言具房の子なり十六歳僧と爲り鎌倉の高峯に依る高峯寂後大徳宗峯に依る元亨元年元國に涉り古林に謁して法嗣と爲る歸朝の後花園帝崇敬し給ひ屢々臨幸あり觀應二年二月二十五日寂す普光大幢國師の謚を賜ふ

乙訓郡 北部

○乙訓郡役所 向日町に在り乙訓郡の戸數三千七百七十六戸人口二萬零百五十四人之に屬す
○停車場 郡内に二箇所あり一は向日町宇寺戸に在り一は山崎に在り

○大原野神社 櫻川より坤二十町に在り官幣中社なり祭神は武甕槌神齋主神天兒屋根命比賣神の四柱にして奈良の春日神社と同神なり嘉祥三年開院左大臣藤原冬嗣公王城守護の爲めに奏請して之を建つ新三笠山と號す仁壽元年勅して春秋兩度の祭儀を定む正曆四年 一條天皇行幸并に五條后行啓あり現今官祭は毎年二月八日なり

○淳和天皇陵 傳に大原山陵といへり大原野勝持寺山西成の間に在り

○小鹽山勝持寺 大原野神社の西北に在り天台律兼學にして遣迎院に屬す俗に花寺といふは昔西行櫻を植ゑ歌を詠せしことあるを以てなり開基は役行者にして自作の不動像を本堂に安す藥師像は傳教の作者は大原寺と號す四十九院ありといふ勝持寺の額は小野道風の筆岩窟の石不動は弘法の作毘沙門地藏は傳教の作樓門は山下の下馬橋より凡そ一里許の處に在り左右に金剛力士を安す阿の像は運慶の作伴の像は運慶の作なり中世荒廢と佛陀上人之を中興す佛陀は興福寺の己講範慶にして攝政師實公の孫なり西行櫻は堂前に在りしも既に枯槁せり山上に上人の庵趾あり

り木下長嘯子も此地に閑居し終に此に没せり其遺趾東北の山上に在り細川玄旨元龜二年此寺に於て連歌の宗匠を集む之を大原千句といふ連歌の懷紙は當寺の什物なり

○向日神社 向日町の岡上に在り府社なり祭神は向日神なり此神は大年神の御子にして素盞鳥尊の御孫なり御母を伊怒比賣と云ふ活須毘神の御女なり古事記を初め神名帳に見えて甚だ奇古なる神社なり境内に三島神社春日神社岡松神社加茂神社ありて攝社とす例祭は毎年陰曆四月中辰日なり華表の額は小野道風の筆なり

○長岡都跡 上羽村の良に在り字を御所屋敷といふとど 桓武天皇延曆三年に奈良の都を去給ひて此地に都を立給ひしに十三年の間なり椋原の南より山崎の北まで南北長き岡山なれば號せしが今は總名を西の岡といふ

○西岩倉金藏寺 灰方の西山上六町許に在り天台宗延曆寺に屬す 桓武天皇平安城草創の時四方の靈地へ大乘經を納めらる此地乃ち西部の岩倉なり本堂十一面觀音は向日明神の神作といふ五大堂念佛堂あり

り瀑泉あり三級をなし一の瀧二の瀧三の瀧といふ開山隆豐禪師名は行善薩摩の人元興寺の道昭に禪を學び龍門の義淵に法相を稟け吳國の智藏に三論を聞く養老二年此山に來り獵人弓を張り鹿を射るに逢ふ其箭鹿に中らずして樟木に中る箭を抜けば異香を放つ獵人云く是靈木なり我汝と共に觀音像を造らんと欲す隆豐之を諾す少時にして像成る獵人云く汝堂を建て之を安せよ吾之を守護せん吾は向日山に止るべしと言終りて去る今の本尊是なり

○西山三鈇寺 西岩倉の南灰谷の上在り天台眞言律淨土の四宗を兼學す開基は源算上人中興は西山善惠なり本寺を往生院と號し子院を華臺寺と云ふ善惠の塔所なり佛殿に觀性法橋が筆の佛眼曼陀羅を本尊とす左右に惠心僧都作の釋迦彌陀を安す智者大師善導大師の像及び善惠宇津宮賴綱等の像を安す賴綱生身の彌陀を拜せんと願ひ目を閉ぢて念佛するに忽ち聖衆の來迎を感ず涙を落して之を拜す少時して聖衆飛歸らんとす別れを哀みて之を抱き止めければ常に念する所の彌陀像なり是より世の人抱止の如來と稱す貞永元年八月十五夜の事なり其像は慈覺の作なり

當山の絶頂を鬚岳と云ふ三峯ありて形三鈇に似たり故に三鈇寺といふ

○報國山光明寺念佛三昧院 粟生村に在り淨土宗西山派の本寺なり本尊は圓光大師自作の坐像にして四國へ左遷の時其母の消息を以て造りたる者張貫の像といふ阿彌陀堂の彌陀は惠心僧都の作にして僧都千駄を刻み江州堅田に安置し所謂堅田千駄の一なり熊谷蓮生之を負ひて廻國し終に此地に止り庵を建て之を安置し念佛三昧院と號す之を當寺の草創とす圓光の廟は寂後十六年叡山の衆僧念佛宗の隆盛に赴くを嫉み墳墓を破却せんと謀る徒弟等之を聞き先づ遺骸を收めて太秦に遷し翌年安貞二年太秦より復此に遷して火葬す遺骨を本寺の西山に埋めたるなり今堂前に在る石棺は始め遺骸を埋葬したる外柩なりといふ

○西山善峯寺 小鹽村西山半里許に在り天台宗延曆寺に屬す西國順拜第二十番の札所なり本尊千手觀音は行圓上人草堂の本尊を刻みたる餘材を以て造りたる者なり開山戒算上人は叡山源信上人の門人なり始め此山に登り七晝夜石上に禪坐する時に老翁來り云ふ吾は此山の主阿知坂神なり上人早く道場を建立す

べしと時に數頭の猪來りて險阻を夷らぐといふ阿彌陀堂には慈覺作の彌陀を安じ二重塔には大日佛を安す護摩堂開山堂經堂藥師堂樓門あり往古は五十餘院有りしといふ

○長岡天滿宮 開田村の西に在り祭神は菅丞相道眞公の靈を祀るなり昌泰四年菅公太宰府に謫せらるゝ時路次此地を過ぐ此地に東小路祐房なる者あり菅公と相善し別れを惜みて公の影像を寫す公謫所に於て薨する後遂に神とし小社を建て之を祀る社傍に杜鵑花多く社前の池塘を造りて梅櫻楓あり四時風景甚だ佳なり

○小鹽山十輪寺 小鹽村に在り天台宗にして善峯寺に屬す貞觀年中染殿皇后明子安産を祈るために建立し給ふ本尊を腹帶地藏と稱す乃ち皇后の造らせ給ふなり又笈摺觀音と稱するを安す是花山法皇順禮の始めに當寺に參詣し給ふに因て此稱あるなり

在原業平墓并遺跡 此地の東上羽村竹林中に五輪の塔あり之を業平墓と云ひ又其母の墓とも云ふ又此寺本堂の後の山上に鹽籠の古跡あり業平鹽籠の風景を愛し遠く難波の潮を汲みて鹽を焼かしめたる遺跡と

云ひ傳ふ潮溜池も一町東に在り

乙訓郡

南部

○本上山奥海印寺寂照院 粟生村の南十町餘に在り眞言宗なり本堂千手觀音は弘法の作二王門の金剛力士は運慶の作開基道雄僧都は俗姓佐伯氏始め華嚴を學び後弘法に従ふて密教を習ふ當寺の山上に人破岩と號する處あり妙見菩薩善財童子顯はれ出で法華經を僧都に授けし靈窟なり又本尊觀音は椎樹の上に出現す故に本上山の稱あり

○土御門天皇陵 傳に金原法華堂陵といへり奥海印寺村の南七八町計金ヶ原に在り

○觀音寺 山崎天王山の東に在り眞言宗なり本堂觀音立像は聖德太子の作祖師堂に弘法大師の像を安ず開基詳ならず中興は本食以空僧正なり當寺の客殿より淀八幡を眼下に看て風景絶佳なり

○補陀落山寶積寺 一に寶寺と云ふ天王山の半腹に在り眞言宗なり寶龜四年行基菩薩草創し荒廢の後長徳年中三河入道寂昭宋國に涉らざる以前に之を中興す

本尊十一面觀音及び寶頭盧尊者は行基の作三重塔に
 は大日佛を安す庭上の石塔婆は 聖武天皇の造らせ
 給ふ所なり此寺は元來 聖武天皇の御願に基きたる
 者なり什寶中に龍神の 天皇に獻上せしといへる打
 出籠なる者あり故に寶寺又寶積寺と名づくぞ
 ○天王山城跡 山崎の北に在り城跡は二所あり一は文
 明二年山名是豊が築きし跡なり一は天正十年豊臣秀
 吉が築きし跡なり近世に於ては城を築かずと雖も元
 治元年七月十九日京都騷擾の如きは長州及び諸藩脱
 走の浪士此山に屯集し終に闕下に進み會津藩を逐拂
 はんとして事敗れ逃れて還り 潔く屠腹して死する
 者眞木知泉守を首とし以下十八人なり吁哉登山の者
 は其墓を一用すべし

○天王神社 天王山に在り祭神は素盞鳥尊八王子なり
 勸請の年紀は詳ならずれども養老二年再興と書し
 たる上梁銘今に在りと云ふ例祭は陰曆四月八日神
 輿三座あり
 ○離宮八幡宮 山崎停車場の側に在り祭神 豊前宇佐
 八幡宮に同じ貞觀元年釋 行教宇佐宮を参拜して神
 託を承け京に歸へる時山崎に着く地に 嵯峨天皇の

離宮あり因て離宮を以て行宮と爲すなり次で石清水
 男山に移し奉ると雖も離宮へも勸請したるを以て今
 に及びても離宮を稱するなり明治戊辰の兵火に罹り
 社殿未だ舊觀に復せずあり
 ○妙喜庵 寶寺の麓に在り禪宗東福寺に屬す本尊は千
 手觀音なり慶安年中春岳禪師草創す豊太閤時々此
 庵に來遊す千利休茶を獻す利休が建る所の二疊敷の
 圍なる者あり庭の一株の松を袖摺松と稱す數奇者の
 愛する所なり

○立願山楊谷寺 淨土谷村に在り向日神社より今里村
 奥海印寺村を歴て此村に至る其間一里餘あり淨土宗
 なり 白河帝の御宇水觀 上人の創建にして本尊千
 手觀音立像長六尺 許なり左右に地藏毘沙門を安す
 眼病を患ふる者祈願すれば必ず平愈すといふ故に參
 籠する者常に絶えず地に楊柳瀑布楊柳水獨鈷水と稱
 する清泉の湧出するあり

●紀伊郡 東部

○百丈山石峯寺 深草村に在り禪宗黃檗派なり開基

は明國の僧千呆禪師なり佛殿に釋迦を安す藥師堂の藥師は長四寸惠心僧都の作元多田滿仲奉する所にし攝州多田郷沙羅連山石峯寺に在り其寺兵火の後此像埋みて土中に在り千呆之を得て大に喜び寺を建て亦石峯寺と號し之を安す

五百羅漢 寺後の山に在り中央に釋迦を安し十六羅漢五百羅漢之を圍繞す皆石像にして屋蓋なし釋迦の像は長六尺其餘は長三尺許なり是釋迦如來靈鷲山に於て說法せし時の狀なりといふ此彫造安永三年より天明の初に至て落成すといふ

深草山寶塔寺 深草村に在り日蓮宗妙顯寺に屬す開基は日像にして本堂に釋迦多寶の二佛及び日蓮の像を安す其他日像廟千餘堂二重塔蕃神堂山門あり山上に七面社あり是法華の守護神なり

瑞光寺 深草村に在り日蓮宗に律を兼ぬ妙顯寺に屬す明暦元年元政法師草創す本尊釋迦の坐像長二尺胎内に五臟六腑を具へ彫刻精美なり何人の作なるを詳かにせず此寺及び寶塔寺を併せ古太政大臣藤原昭宣公が建てし極樂寺の境地なり今に於て風景佳勝なり門前に昭宣公の塚あり

○仁明天皇陵 傳に深草陵といへり車家と云ふ所に在り

○安樂行院 深草寶塔寺前に在り台密淨律の四宗兼學にして京都般舟院の兼知所なりしが般舟院は一新後廢却したり本尊不動歡喜天の二像を安す昔は法華堂ありて諸帝火葬の御骨を收めたりし處といふ

○後深草天皇陵 傳に深草法華堂といへり以下の諸陵皆同所に在り

- 伏見天皇陵
- 後伏見天皇陵
- 後光嚴天皇陵
- 後圓融天皇陵
- 後小松天皇陵
- 稱光天皇陵
- 後土御門天皇陵
- 後柏原天皇陵
- 後奈良天皇陵
- 正親野天皇陵
- 後陽成天皇陵
- 藤森神社 伏見街道墨染の北に在り府社なり祭神は

贈崇道盡敬皇 帝舍人親 王なり東に早良親王西に伊豫親王を祭る創立年月詳かならず例祭は陰曆五月五日にして武服を着し走馬する行装ありこは早良親王の軍装に模擬する者といふ又旗塚蒙古塚等ありて俗説を傳ふれども今之を畧す

○墨染寺 藤森の南二町許に在り日蓮宗妙傳寺に屢す慶長年中日秀上人開基す豊太閤來遊の地にして太閤衣冠の肖像あり

墨染櫻 庭前に在り寛年三年攝政基經公薨せし時上野岑雄之を哀みて深草の野邊の櫻し心あらば今年はかりは墨染に咲けと詠じたる櫻なり古は此邊も深草の内なり櫻も其後度々裁替し者なり

桓武天皇 傳に柏原陵といへり伏見梅谷の東に在り 天皇は延曆二十五年三月十七日崩御し給ふ今明治二十八年は正に一千百年に當れり京都の隆昌當時と異なることなし 荷も此陵を拜する者孰か皇運の悠久なると恩澤の深厚なるとを感戴せざる者

あらんや

○伏見城跡 伏見山に在り文祿三年豊臣秀吉の築く所なり秀 後徳川家康も亦之に居る慶長五年家康東

に下る鳥居元忠之を守る石田三成の黨浮田秀家小早川秀秋島津義弘等來攻めて之を陥る元忠之に死す城遂に墟と爲る

○桃山 伏見町の東に在り桃花と櫻花とに富む地なり梅多き處を梅溪といふ總て城跡の内なり宇治見臺といふ處は南端に在り地勢爽垲にして觀梅最宜の處なり臨望すれば巨椋池は鏡の如く淀川は帶の如く梅券鼻を撲ち身は萬玉峯に在るが如きを覺う

○宇治見山龍雲寺 城山に在り天台宗なり正徳年中珍恭和尚開基す本尊觀音像は徳川常憲公持せし者石川備中守之を賜ひ以て此寺に附す大師堂に元三大師自作の像を安す此寺初めは伏見敦賀町に在りしとぞ

○崇光 天皇陵 傳に伏見大光明寺陵といへり指月後山宇治長老屋敷といふ所に在り

○御香宮 城山の西に在り府社なり祭神は神功皇后なり鎮座の年月詳かならず文祿年中伏見城を築く時之を大龜谷の東に移す其後又舊地に遷坐す其地を古御香宮と稱して御旅所と爲す御香水と稱する清泉あり古代自ら香氣を放ち能く病者を醫することあり是御香宮の稱起る緣由なり本殿拜殿齋殿九所堂繪馬堂等

あり九所堂は九柱の末社を祭る處なり拜殿南門は桃山城に在りし者を移せるなり

○豊後橋 指月の西に在り奈良街道に架し淀川に跨る

豊太閤の時橋の東に大友豊後守の邸あり因て名とす

古昔は桂橋と云ひ近來觀月橋と稱す指月の縁に由るなり指月は伏見町觀月第一の勝地とす

●紀伊郡

西部

○伏見町 京都市より伏見町まで三里弱なり二道あり

東なれば伏見街道を下るべく西なれば堀河院通より

逸じべし東西四町南北一里餘の街市にして練兵場あり裁判所あり郵便電信局あり警察署あり繁盛なる

こと京都に亞ぐ

○紀伊郡役所 伏見町字御駕籠町に在り紀伊郡の戸數八千九百三十二戸人口四萬三千五百四十九人之に屬す

○三栖神社 下三栖村に在り祭神は 天武天皇の御靈

なり此地の産土神とす例祭は陰曆九月十六日大松明を燃して神興行幸の例式あり

○巨椋池 或は小倉池に作る紀伊久世兩郡に跨る大池

なり東西三十四町南北二十四町周廻四里十一町なり

東邊の堤防を巨椋堤と稱す大和街道にして豊太閤の時築く所なり池に多く蓮藕を栽る水上に彌望たり夏

曉舟を棹さし紅葩碧蓋の間を穿てば言ふべからざる

觀あり且葦あり菱あり之を採るも亦一快事なり

○安樂壽院 竹田村に在り眞言宗古義新義を兩用す初め 鳥羽上皇の離宮なりしを改めて寺と爲し五重

塔を立給ふ現今の本道は元の五重塔の地にして之を

本御塔と稱へ本尊を正字阿彌陀佛と稱ふ二重塔には

春日作の彌陀を安す此塔は豊臣秀頼建る所なり新御

塔には定朝作の地藏を安す脇壇に 鳥羽上皇の宸影

及び美福門院八條女院の二影を安す其他弘法作の釋

迦彌陀藥師三昧の土佛あり 上皇御筆の如法經を收

ひる五輪塔あり御愛梅あり冠石あり寺境寛宏規模壯

偉なり

○白河天皇陵 傳に菩提院 陵といへり竹田村西畑

の中に在り

○鳥羽天皇陵 傳に安樂院 陵といへり安樂壽院に

在り

○近衛天皇陵 傳に新御塔陵といへり安樂壽院に在り

○北向不動院 竹田村に在り眞言宗なり。鳥羽上皇の御願に依り久壽二年知足院關白忠實公建立開基は興教大師顯鏡なり本尊不動佛け覺の作なり顯鏡山貴山の毘沙門に參籠の時曼遮生の珠を感得す之を鳥羽上皇に獻る不動像を刻ひ時其珠を出して其首に收めしめ給ふといふ

○戀塚 上鳥羽村に在り遠藤盛遠誤りて源亘の妻袈裟を殺し其首を葬りし所と傳ふ淨禪寺の門前に碑文あり正保四年十一月永井日向守直清が林羅山をして銘せしめて建る所なり然るに下鳥羽村にも戀塚寺といふ寺あり亦袈裟の墓なりと傳ふ上鳥羽下鳥羽相距ること二十町許共に戀塚あり或は云ふ一は首塚一は尸骸を葬ふる所ならんと

○鳥羽神社 小枝橋の東に在り府社なり祭神は國常立尊にして原は眞幡寸神社と稱す 桓武天皇奠都の時平安城の南に當るを以て城南宮と稱し伊勢男山加茂松尾平野稻荷春日の七社を合祀せしめ宸筆七社の神名を書し給ふ之を奉じて當社の神體と爲す例祭は陰曆九月廿日神輿二基あり上鳥羽下鳥羽竹田塔森小枝等の産土神なり

宇治郡

北部

○天智天皇陵 傳に山階陵といへり御陵村宇御廟野に在り

○吉祥山安祥寺 御陵村に在り眞言宗なり高野山實性院に屬す仁壽年中染殿皇后順子建立開山興雅僧正中興應笑上人本堂に十一面觀音及び五智如來を安し地藏堂に惠運僧都が唐國より將來したる地藏を安し開山堂に惠運及び宗意僧正の像を安す此寺初めは如意山壇の谷にあり慶長年中今の地に移す

○諸羽神社 四宮村に在り祭神は天兒屋根命 天太玉命二座なり

○追分 京都伏見大津の驛路なり道分の石に柳は縁花は紅の文字を刻めり

○楊柳山十禪寺 四宮村に在り天台宗なり本尊聖觀音は聖德太子の作往古此地は 仁明帝第四の皇子人康親王の住居にして山階宮と號す後寺と爲し親王を開祖とす其後荒廢せしを天和中眞慶法師之を中興す明曆元年 明正帝堂舎を再興し二重閣を建給ひ得月樓と名づく 後水尾帝御幸ありて山水を愛し給ふ

關前に短冊の狀に石を敷並べ短冊石と號す閣中の本尊彌陀は後陽成帝の御作といふ又姿見の鏡あり明正帝の御物といふ

○奴茶屋 大津街道澁谷越の別れ路北側に在り此家の祖先に片岡丑兵衛なる者あり射術に達す行旅の盜賊に逢ふを見るに忍びず自ら弓矢を帶して之を護衛す奴茶屋の稱是より起る今に其弓矢を傳へて店頭に列し遺風を示せり

○大石良雄舊宅 奴茶屋の斜向ふに在り原は西野山村岩屋寺の下に在りて良雄の住居したるは其舊地に在りし頃なるが後屢々持主の變遷に遇ひ今は此處に在るなりとぞ但當時の姿の遺るは座敷玄關の二間のみにして他は後に造作せしなり玄關は四疊座敷は八疊にして欄間に怨敵吉良氏の定紋五三の桐を刻したる不審なれども良雄は此家を建てたるに非ず借家住居に相違なし

○音羽山 又牛尾山ともいふ追分より東南の山なり音羽村小山村は道の傍に在り音羽川を左右にして登る道に安履石あり行釈居士の沓の在りし處といふ弘法腰掛石鮎尻瀧 銚子瀧仙人洞 白糸瀧 蛙岩七曲坂

等あり音羽川の末は暫らく絶て後に京の音羽瀧と

○半尾山法嚴寺

七曲の上に在り眞言律を兼學す本尊十一面觀音は天智天皇の御作といふ脇士は不動毘沙門又行釈居士延鎮法師の像を安す當寺を清水寺與の院といふ事清水寺縁起に見ゆ什物に行釈居士の沓

あり 蛇ヶ淵 岩間に方四間餘の淵あり昔大蛇之に棲み人を惱ます厨子奥村の四手井氏の祖先伊賀守景福なる者勇氣あり其害を除かんと欲す延文三年三月七日來りて窺ふ蛇出で、景福を呑んどす即ち劍を拔て之を寸斷にす此時清水寺の音羽瀧血液を流すといふ其屍を焼捨てし處今燒芝といふ景福家に歸りし後毒に罹り死せんとす一僧忽ち來り藥の方法を教へて去る乃ち其法に従ひて調合し之を服すれば病頓に平愈す是

四年井氏に傳ふる金屑丸なり其後永祿年中松永久秀此藥を試みると欲し死罪の者十人を出し悉く毒を服せしむ而して後八人に此藥を與ふ二人は即死す八人は蘇活す是より藥名の上に様の字を加ふ

○岩屋神社 大宅村の東に在り祭神は宮道祖神なり例

祭は陰曆九月十六日此所の産土神なり神輿三基あり
○岩屋寺 西野山村に在り本堂の不動佛は智證の作是
大石良雄の持念佛といふ又印度舶來の十一面觀音を
初めとし良雄の稽古雜刀手鎗鎖帷子菓子鉢茶覆膳部
赤穂城の勤番狀淺野内匠頭の肖像大高源吾が母に贈
りし書狀等あり又毘沙門堂あり毘沙門の左右に四十

七士の木像あり

○三宮神社 東野村に在り祭神は葺不合尊 稻荷神八
幡堂三座なり此所の産土神なり

○花山稻荷 南花山村に在り世の人大石稻荷と稱し賽
人常に多し

○華頂山元慶寺 北花山村に在り天台宗なり貞觀十一
年 陽成天皇の御願に依り遍昭僧正開基す本尊藥師
佛は遍昭の作脇士の彌陀は慈覺の作毘沙門は運慶の
作遍昭の像は自作なり 花山法皇の像あり御自作と
いふ遍昭は良安世の子本名は宗貞 仁明天皇に仕へ
寵を受くる厚し 天皇崩するに及び哀慕に堪へず叡
山に登り僧と爲り慈覺に就て台教を學ぶ灌頂を圓珍
に稟く元慶三年僧正に任す 仁和天皇其徳を重じて
白戸 賜ひ元慶寺座主と爲す寛平二年 正月十九

日寂す其後寛和二年

花山天皇位を遷れて此寺に入
り落飾し給ひしこと諸人知る所なり此に贅せず

○本派本願寺係所 東野村に在り山科御坊と稱す本は
舞樂寺といふ門前に蓮如上人の塚あり測に一枿樹あり
其種悉く二股を爲す俗に傳ふ阿梅作七と云へる
女男此樹に縊れて情死す其一念の作す所なりと
大谷派本願寺係所 竹ヶ鼻村に在り山科御坊と稱す
本は長福寺といふ東の方に實如上人の塚あり實如は
本願寺の九代にして蓮如の八男なり

宇治郡

○阪上田村麻呂墓 小栗栖村に在り田村麻呂は苜田麻
呂の子身の長五尺八寸胸厚さ一尺二寸身の重さ二百
一斤大將軍大納言に任す弘仁二年五月二十三日薨す
年五十四從二位を贈らる初め殯斂の時其屍を棺中に
立て平安城に向ひ甲冑弓劍等を併せ之を葬る蓋し
桓武天皇の命に従ふなり其後國家に非常ある時は此
塚鳴動す大將出征する時は先づ此に參拜して禱る

とふ

○隨心院 小野村に在り曼荼羅寺と號す開基は仁海僧

正なり一新前は執柄家の種族のみ住職する所にして
 攝家御門跡と稱せしなり仁海寛仁二年大旱の時勅を
 奉じて神泉苑に於て雨を祈る時に大雨三日夜其後九
 回勅を奉じて雨を祈るに皆應驗あり世人雨僧正と
 呼ぶ永承元年五月十六日寂す年九十二
 小町水 門内南の竹林中に在り此地は出羽郡司小野
 真實の宅趾にして其女小野小町常に此水を汲んで艶
 顔を粧ひしとぞ厨の前に栢の大樹あり深草少將百夜
 通ひし時植置さし物といふ醍醐往還の西側竹林中に
 少將の通路と稱する所あり深草より百夜小町の宅へ
 通へども本望遂げず後人其路を忌みて往來を塞ぐと
 いふ

○勸修寺 勸修寺村に在り華嚴と眞言との兼學なり法
 親王の住職にして御門跡たりし開祖は範俊僧正に
 して 醍醐天皇の母后内大臣藤原高藤公の女胤子の
 建立なり本尊觀音像長五尺三寸は 天皇と等身とい
 ふ

○宇治郡役所 醍醐村宇醍醐に在り宇治郡の戸數二千
 五百六十一戸人數一万四千六百六十九人之に屬す
 ○醍醐天皇陵 傳に後山階陵といへり隨心院の東

に在り

○朱雀天皇陵 傳に醍醐陵といへり後山階陵の南
 三町に在り

○深雪山醍醐寺 上下二寺あり上醍醐は笠取山の上に
 在り下醍醐は山麓に在り其間三十七町の坂路を隔て
 り眞言宗修驗道なり下醍醐は山門本堂五重塔開山堂
 等あり本堂は藥師佛を安す日天月天を脇士とす又四
 天王を安す此堂同祿の後豐太閤之を再建す開山堂は
 空海と聖寶僧正とを安す五重塔は二十一牀の曼陀羅
 を本尊とす開山聖寶初め山に登り靈地を求めんと欲
 せしに一老翁來り清泉を示し是こそ醍醐味なれ此地
 に精舎を營むべし吾之を護らん吾は横尾明神なりと
 云終りて見ゆ是醍醐寺の起る緣由なり聖寶此事を
 奏す 醍醐天皇乃ち伽藍を創立させ給ふ嘗て 天皇
 勅して求兒の法を修せさせ給ひしに果して再度應驗
 ありて 朱雀村上二帝を生し給ふ故に 三帝の崇信
 淺からず聖寶は延喜九年七月六日寂す理源大師と
 謚す上醍醐は麓より一町毎に標石あり西國順禮第
 十一番の札所にして本堂如意輪觀音は理源大師の作
 五大堂の不動尊も理源大師の作他の四尊は理會僧都

の作此は醍醐帝朝敵平將門降伏の爲めに造らせ給ふ薬師堂の薬師も理會の作又准呢観音像ありこは観音堂火後此に移すなり祖師堂の中央は聖寶南は空海北は観賢僧正観賢は此寺の第二世なり此山峰勢巍峨として松杉蒼鬱たり山氣人に逼り夏と雖も暑さを知らず

○三寶院 下醍醐の山門外に在り聖寶尊師創造する所にして観賢僧正以來醍醐寺座主に任じ御門跡の住する所なり當山と號する修験道は皆之に屬せしなり殿舎宏麗園池幽雅にして豊太閤の建築なり太閤花を看し舊蹟依然として猶存せり

○一言寺 醍醐村の南に在り眞言宗なり醍醐寺に屬す又禪那院とも號す本尊十一面觀音は安阿彌の作内侍堂に阿波内侍の像を安す内侍は少納言入道信西の妻剃髮して眞阿尼と稱す常に觀音を信す一日觀音の靈告に感じ遂に此寺を建つといふ

○法界寺 日野薬師と稱す日野村に在り日野參議家宗卿の本願に依り孫三位資業卿の建立に係る本尊薬師佛は金銅の坐像にして厨子内の安す長七寸なり左右の日天月天十二神將二王等は運慶の作後壇に丈六の

彌陀像を安す定朝の作なり而して女子乳汁に乏き者此寺の薬師に祈願すれば必應驗ありとて賽人絶えず甚だ有名なり宗旨は眞言なり

○平重衡墓 日野村の茶園の中に在り此邊俗に武士田といふ重衡木津河の畔に於て誅せらる妻大納言局恰も日野に在り往て其首を求めて此に葬りしといふ鴨長明方丈石 日野村の東五町許山腹に在り石床三間四面高さ二丈許あり長明方丈の室を築きたりし處にて方丈記を著はせし緣由なり

○無量山西方寺 木幡村に在り淨土宗なり本尊彌陀は金銅の立像長一尺三寸許なり其緣起を尋るに昔水次郎と云る漁人あり時に一僧毎朝托鉢して門に立つ水次郎謂へらく彼僧來る日は我網魚を得ず明日來らば之を懲すべしとて鐵箸を火にして之を待ちける明日果して來る直に捕へて其額を焼く僧莞爾として去る

水次郎之を怪み其後に尾して追ふ終に粟生の光明寺に入て其影を失す因て寺僧に問ふに其者無し偶く堂内釋迦像を拜するに額に燒痕あり血流れ面を汚す水次郎之を見て深く悔心を生じ泣て家に歸る其夜夢ひらく一僧來り告て曰く汝の緣已に熟せり今夜網を携

へ淀の神木といふ處に到るべし必ず寶物を得んと夢
覺めて大に喜び直に舟に棹さし夢告の處に到る暗水
の上に光明あり乃ち網を投じて紫金の佛像を得たり
人はより彌陀次郎と呼ぶ時に此寺の常照阿闍梨之を
聞き就て之を拜す終に請ふて本尊と爲す今の本尊是
なり水次郎後に寺に入り僧と爲る貞應元年七月年八
十にして死す今本尊の脇に其像を祀る

○黄檗山萬福寺 五箇庄村に在禪宗黃檗派の本寺なり
開山隱元名は隆琦明國福州の人承應三年來朝萬治三
年公命に依りて此地を賜り寛文三年伽藍を創立す山
門天王殿大寶殿祖師堂選佛場法堂開山堂等あり造
總て明國の風を模す隱元は延寶元年四月三日寂す初
め大光普照國師の號を賜ふ寂後佛慈廣鑑經山首出國
師の諡を賜ふ

○明星山三室戸寺 大鳳寺村に在り天台宗にして西國
順禮第十番の札所なり開山は智證大師圓珍なり本尊
千手觀音は閻浮檀金の立像にして長八寸二分あり炭
山の麓岩淵の底より出現せし者と云ふ赤山權現祠あ
り淨明法師を祭る淨明は園城寺の僧にして宇治橋合
戦の時抜群の功ありし人なり

○木幡神社 木幡村の北に在り祭神は天之忍穗耳命
なり此地の産土神なり

○喜撰嶽 三室戸より一里許巽に在り山下の溪を櫃川
と云ふ山上に岩窟あり内に一基の石塔あり銘字分明
ならず絶頂は喜撰法師が居住せる跡なり

○池尾茶園 池尾村の茶園十二町餘あり往昔明惠上人
初めて茶を栽るし所にして村内製茶家多し此地は日
本最初の茶園たり

○橋寺 常光寺放生院と稱す宇治橋の北に在り律宗
なり本尊は地藏佛なり開基道昭法師大化二年始めて
宇治橋を架す因て橋寺の稱あり中興を興正菩薩とす

○離宮八幡宮 橋寺の南二町許に在り祭神は應神天
皇 神功皇后及び姫神なり攝社に 檉神社あり菟道
稚郎子を祭る離宮と稱する所以は蓋し稚郎子の住し
給へる地なればなりといふ例祭五月八日神興三座あ
り

○朝日山惠心院 離宮の南に在り台密淨律の四宗を兼
學す本尊大日及び薬師佛は共に弘法の作開基惠心僧
都名は源信和州の人姓は清原氏叡山慈惠に就て顯密
を究め一乘要訣往生要集等を著す寛仁元年六月

十日寂す年七十六

○佛徳山興聖寶林寺

惠心院の南に在り禪宗曹洞派なり開山道元禪師名は希玄安貞元年宋に入り如淨禪師の法を嗣ぐ建長五年八月廿八日寂す中興は萬安禪師

○菟道稚郎子墓 傳に宇治墓といへり興聖寺の上方朝日山に在り

○宇治川 源を江州琵琶湖より發し宇治に至りて漸く大河と爲り紀伊久世兩郡を界し伏見を過ぎて淀川に入る

○宇治町 宇治橋より西に在り東西十五町南北二町半の間なり地は山に對し水に臨み風景甚だ佳なり特に摘茶の時觀螢の候遊人尤も多き時なり

久世郡

東部

○鳳凰山平等院

宇治橋の南二町許に在り天台淨土を兼學す開山は大僧正行尊中興は心譽なり心譽より淨土を兼學するに至る三井寺に屬す初めは河原大臣融公の別莊なり薨去の後 陽成天皇行宮を此に營み宇治院と號せ給ふ 宇多朱雀の二天皇も之を離宮

とし給ふ長徳四年御堂關白道長公請ふて山莊と爲す其子宇治關白賴通公に至り永承六年三月拾て、寺と爲し平等院と號す佛殿は鳳凰を象り左右の高樓廻廊を兩翼とし後背の廊を尾とす屋上に銅製雄雌の鳳凰を置く高さ三尺許 風に隨ふて翔舞の狀を爲す殿内に彌陀の坐像長六尺許なるを安す定朝の作なり承慶には二十五菩薩の像を描く四壁及び三方の唐戸に淨土九品の相を描く繪師長者爲成の筆なり上には色紙形ありて觀經の文を書せり中納言俊房の筆なり天蓋瓔絡等七寶を鏤めたり是即ち永承年中賴通の建る所莊飾華美を盡し全國絶倫なり近比北米國市俄古大博覽會に出品陳列したるは此堂の模形なり釣殿には春日作の十一面觀音を安す脇壇は地藏と不動なり此寺南北朝の時兵火に罹りしこと太平記にあれども其時の回祿は奥殿寶庫等に止りて鳳凰堂釣殿等は幸に回祿を免れたり

○扇芝 樓門内に在り治承の亂に 源三位賴政自殺の處

○縣神社 平等院後門の前に在り祭神は社説に木花之佐久夜毘賣命とす俗説に弓削道鏡とし又は宇治惡左

府の靈とす例祭は陰曆五月五日の夜にして神輿一基あり其夜は京阪より賽詣する者殊に多く往來路を塞ぐに至る

○橋姫神社 宇治橋の西詰に在り二社相雙べり祭神詳かならず俗説に橋姫は宇治の橋守の女なり或男に通ひて孕めり女裙帯菜を食はんことを請ふ男伊勢海

伊勢海を尋ぬるに男現はれてさむしろに衣片しき今夜もや宇治の橋姫我を待らんと歌ひけりと今此社は其男女を祭れるなりとぞ

○橋小島崎 宇治橋の川下二町に在りしといふ今確知し難し乃ち源平盛衰記にいへる佐々木高綱が梶原

景季を賺して先登したる處なり山吹瀬といふは融公が歎冬を川岸に栽るたる處にして古歌に多くあれども是も今詳かならず

○旗島 宇治橋より乾八町許に在り此地前に宇治川あり後に巨椋池あり其狀島に似たれば旗島といふ又旗堤といふは宇治橋より豊後橋まで五十町の間なり釣月といふ處は觀月に好き地なり伏見の指月と共に一雙の名所とす

○榎本八幡宮 佐山村に在り祭神は男山神社に同じ貞觀年中僧行教初めて宇佐八幡を男山に勧請する時

紀州熊野の神職木工頭橋良基勅を奉じて行教に従ひ神殿を男山に營ひ其時良基此地の清寂を愛し宅を構て居る近傍の土民漸く家を此地に移し來り住する者多く年を歴て一村を爲すに至る天治二年村人靈夢を感じ男山神社を勧請し榎本八幡と號せり此地古へ一株の榎樹あり梢高く枝茂り遠望すれば山の如し其樹下に鎮坐したるなり

○兜神社 觀音堂村に在り祭る所は高倉宮以仁王の兜なり王の遺骸を京都に送る時此地を過ぐ其兜地に墮つ村人之を拾ひ家に納む崇を爲す畏れて社を立て之を奉り以て此地の産土神と爲す例祭は陰曆九月三日なり猶相樂郡の高倉宮廟の條下を參看すべし

久世郡

西部

○淀町 小橋以南の市街をいふ小橋は久世紀伊分界の所に跨る淀川桂川巨椋池等の諸流相會する處なるを以て古より淀といふ

○久世郡役所 淀町字下津に在り久世郡の戸數二千五百六十一戸人口一萬四千六百六十九人之に屬す

○淀城跡 初め天正年中岩成左通此地に城を築き織田信長と戦ひしことあり其後豊臣秀吉の室此に居り淀君の稱を得たり元和年中徳川氏の時伏見城を移して造らしめ松平越中守定綱を此に封す後屢々交替あり享保八年より稻葉丹後守正知之を領せしが維新に際し廢墟と爲る稻葉氏の舊臣輩遺徳を仰ぎ稻葉神社を建て、之を奉ず

○淀姫神社 水垂村に在り地は紀伊郡に屬すと雖も此神社は淀町の産土神に係れば此に載す祭神は與止日女命にして肥前國佐嘉郡川上なる神社を僧千觀が勸請したる者なり例祭は陰曆九月廿三日神輿一基あり
○御牧 淀町の東南を御牧郷とす中に一口釘貫北川類等の數村あり此地は古昔左中馬寮の管する所にして天子の御馬を放牧する地なり今に其名を存す

綴喜郡

西部

○美豆 淀町より三町許南に在り古昔天子の御馬の

廐此に在りしといふ故に久世郡の御牧の近傍に在るなりとぞ

○八幡町 男山の東麓に在り南北二十二町東西凡三町半西方十四五町別れて橋本といへる一驛あり是も亦八幡町の内なり

○男山神社 男山の嶺に在り原は石清水八幡宮と稱す官幣大社なり祭神は 應神天皇 神功皇后 玉依姫

の三座なり其原始は南都大安寺僧行教姓は紀氏武内宿禰の裔なり貞觀二年宇佐八幡に參籠し一夏の間經呪を讀誦す遂に靈告を得て之を奏聞す朝廷之を納れ宇佐の觀模に準じて造營鎮座せしむ神殿拜殿廻廊宏壯にして彫刻彩色精麗なり有名なる黄金の承雷なる者長さ十三間源頼朝が寄附する所といふ官祭は九月十五日維新後中絶したれど近年再興あり宮内省より上卿代參議代辨代左右次將代等の諸官人を遣はさる鳳輦山下の宿院へ行幸ありて其儀式嚴肅優美

なり末社に若宮は仁徳天皇を祭る若宮は宇禮姫吳禮姫を祭る水若宮は菟道稚皇子を祭る

○疫神社 山下に在り此を宿院とす毎年正月十五日より十九日まで諸人參詣して目釣竹破魔弓等を求め

て歸る習俗あり

○高良神社 右の傍に在り高良玉垂命を祭る

○德迎山正法寺 八幡町宇志水に在り淨土宗智恩寺に

屬す開基を圓誓と云ひ中興を聖譽といふ本尊彌陀は

惠心の作なり第十一世傳譽天文十六年參内説法す

後奈良帝宸筆の額を賜ふ此寺に尾州藩元祖大納言

源義直卿母相應院殿の墓あり故を以て尾藩より嘗

て香火を扶けしといふ

○女郎花塚 右同所より南五町に在り大同年中小野頼

風の妻女郎花なる者其夫の他女に通ずるを聞き恨み

て死せり之を葬りし塚なりといふ俚談あり之を畧す

○如法經塚 男山の西に在り桓武帝平安城の四方に

岩倉を置き給ひし此乃ち南岩藏の地といふ

○美濃山 宇志水の南に在り待宵小侍従の妹後鳥羽

帝の愛妃美濃局の住せし處にして有名の竹は此地よ

り産すといふ

○達磨堂圓福寺 宇幣原に在り禪宗妙心寺に屬す天明

三年草創して禪家専門道場と爲す達磨大師の像は聖

德太子の作なり原大和國片岡達磨寺に在りし物なり

太子片岡の飢人を見て是達磨なることを知り其像を

刻む其後轉じて今は此寺に在り

○大住村 八幡町より南凡二里許に在り大住は大隅の

轉じたるにて古昔大隅薩摩の國人をば朝廷より召れ

て隼人の職に仕へしむ國人京近き處に留住し子孫ま

で其職を勤むは大住村なり

○靈瑞山妙勝寺酬恩庵 木津川の西薪村に在り禪宗大

德寺に屬す正應年中絶崖卓禪師草創して其師大應國

師を開山とす其後一休和尚中興す佛殿に釋迦を安じ

開山堂に大應の像を安す方丈の庭は佐川田喜六造る

所なり一休の塔及び其笠杖等存せり

○天神森 薪村の南に在り天神社あり式内の神社なり

○筒城都跡 普賢寺谷多々羅村の西北五町に在り俗に

都谷といふ 仁德天皇三十年皇后宮室を興して居る

と日本紀に云へる又 繼體天皇五年都を遷し給ふも

皆此處なり

綴喜郡

東部

○補陀落山禪定寺 宇治田原郷禪定寺村に在り禪宗曹

洞派加賀大乘寺に屬す正曆二年關白忠實公創建し東

大寺の僧平宗を開山とし華嚴宗を奉ず後衰廢し延寶年中月舟胡禪師中興し禪宗と爲す圓通閣には定朝作の十一面觀音を安す長八尺友殊普賢四天王も同作にして長各二尺三寸地藏堂には五尺許の地藏坐像を安す亦同作なり

○猿丸太夫祠 禪定寺村の東奥山田に在り猿丸太夫の舊跡なり即ち奥山に紅葉階分の歌を詠せし處なり方丈記に田上川をわたり猿丸太夫が墓を尋ぬとあるも此處なり

○栗林 田原郷名村の南に在り相傳ふ昔 天武天皇未だ皇子と稱し時 弘文天皇と相協ひまさず竊かに東國に遁れ給ふ時其路に當りければ土人其常人に非ざるを知り燒栗及び燐栗を進めけるに手づから栗を土中に埋め誓ひて事の成否を卜なひ給ふ其栗果して芽の發し生長す 弘文天皇自殺し給へば直に天位に登り給ふ其栗漸く繁衍して方四町の林と爲る其實今に至り燒きたるが如く燐たるが如く毎歲之を以て禁廷に獻上するを例とせしとぞ
天武天皇祠 栗林の緣由を以て建る者なり林の東に在り

○信西塚 大道寺村道の傍に在り昔少納言入道信西は右衛門督信賴の爲に敗られ領地此里に來り土を穿ち自ら埋めて死を待つ敵兵追來り掘出し首を斬りて京都に還る此地其遺骸を葬りし處なり

○椎尾瀧 市邊村の山中に在り一名唐櫃瀧といふ

○玉水 長池の南一里餘に在り大和街道の驛にして京都を距ること七里二町木津を距ること一里三十二町奈良を距ること二十六町なり市街の北端左傍に井水を稱して玉水といふ往來の人之を飲む井手の玉川の水に準へるなり

○玉井寺 井手里の中水無村に在り眞言律兼學なり開基は覺音阿闍梨中興は性海上人なり本尊は聖觀音なり

玉井蛙塚 此寺の南庭に在り古へ蛙の多く集りし所といふ是も井手の蛙に準へるものか

○井手左大臣舊跡 玉水の巽三町許宇石垣の南に在り井手左大臣は初名は葛城王後に橘姓を賜ひて橘諸兄と改む 元正 聖武 孝謙三帝に仕へ忠亮無私の人なり正一位左大臣に進む井手の幽胡を愛し別館を營みて之に居る故に井手左大臣と稱す

○井手玉川 井手は玉水驛の東に在り此地蛙の奇なるを産せり色は徹黒にて形大ならず踊り歩むことなく毎に水に棲み夜更るに隨ふて鳴く其聲清絶愛すべし之を水盆に蓄ひ金網を以て之を蓋ひ遠きに致す者あり玉川は井手の南を過ぎ玉水を経て木津川に入る者にして古昔榊棠の名所なれども其跡絶たること久し近傍に正方寺といへる寺院あり其處に櫻の大樹あり彼の圓山公園の櫻よりも猶高大美麗なり

●相樂郡 西部

○高倉宮廟 綺田村の南六町許に在り祭る所は後白河帝第二の皇子高倉宮以仁王治承四年五月廿三日南都に走らんとし光明山鳥居の前に於て平軍の流矢の爲め薨せり土人其怨魂を鎮せんが爲めに之を祭る遺骸は平軍之を京都に送る途中久世郡觀音堂村に至りて其兜落つ村人之を拾ふて社に納む

○普門山蟹満寺 綺田村に在り眞言宗なり一に紙幡寺と云ふ本尊は釋迦の坐像紫銅を以て造る長八尺なり此寺に蟹女を救ひし傳記あり今之を畧す

○光明山寺舊跡 綺田村の東山上に在り麓より十八町の坂路あり中間を國見岳といふ風景殊絶なり寺廢すること久し近世土中より觀音像を發出す堂を建て之を安す

○鳥居 古へ光明山に鳥居あり寺に鳥居あるは攝州天王寺同州勝尾寺の例といふ今廢して地名と爲れり數の渡口の東の堤奈良道の左の里なり

○北吉野神童寺金剛藏院 神童寺村に在り眞言宗なり本尊藏王權現立像長八尺は役小角の作開山堂役小角の像は四十二歳の時自作なり傍に前鬼後鬼あり子守勝手の兩社及び金精明神の社等は本堂の東二町に在り後山を袖振山といふ昔和州吉野山に毒蛇あり人を惱ます故に笠置山を大峯に準し當山を吉野山に準して參詣せしめたりといふ

○泉橋寺 上粕村木津川渡口の北に在り眞言宗なり橋寺と號す行基五畿内に四十九院を創建す是其一なり天平十三年行基泉川の橋を造りし時に此寺を建てり本尊地藏の立像長二尺五寸惠心の作脇壇の聖觀音も同作なり門外の石地藏長八尺許の立像は行基の作と云ふ周廻に礎石あり往時堂宇ありしこと知るべ

○**し** 狛の里 上狛は木津川を隔て北十町許に在り下狛は木津川の西に在り往古百濟國の僧惠辨惠宗の二人來りて惠辨は上狛に居り惠宗は下狛に居る而して狛の名は二僧の居りしより始まる高麗の二字を狛に替て用ゐしなり一説に百濟を狛字と成したるにて百は白なり濟は才なりといふ上狛の東野中に高麗寺の舊跡の礎遺れり此地古代より瓜を以て名あり催馬樂に山背の狛の濟りの瓜作りとあるは是にて拾遺集に大納言朝光の歌に音に聞く狛の濟りの瓜つくり兎なり角なりなる心かなとよめり此他古歌に多くよめり

○**木津町** 京都を距ること八里三十五町奈良を距ること一里三十町にして大和街道の驛なり

○**木津川** 源を大河原村より發し綴喜郡八幡に至りて淀川に入る一名泉川又輪韓川挑川等の名あり

○**相樂郡役所** 木津町字木津に在り相樂郡の戸數八千四百九十戸人口四萬零三千零四人之に屬す

○**大智寺** 大路村の東二町許に在り眞言宗なり開基慈心は西大寺觀尊の上足なり文殊佛を本尊とす昔泉川の橋破壊して其柱水底に残留すること久し時々光を

放つ里人 橋次郎守安なる者之を收む慈心時に海修山寺に住す其靈木なるを知り勸めて寺を造り之を安せしむ乃ち橋柱寺を創し慈心を以て開祖とす後文殊佛を安するに當りて大智寺と改む

○**哀堂** 大智寺の南に在り淨土宗にして本尊は彌陀坐像長二尺餘なり昔平重衡誅せらるゝ時此佛前に於て念佛すること百遍遂に刑に就く前に十三重の石塔あり是其冥福を資くる爲めなり塚は宇治郡の條下に在り又重衡首洗池は哀堂の東北堤の下に在り不生柿は堤の南園圃の中に在り後人遺跡を表して柿樹を其地に栽ゑしも實を結ばす屢々栽替ると雖も敢て實ること無しといふ

○**祝園** 稻八妻村の東南に在り民居大和街道の東西にあり祝園の名義は祭場にて 神武天皇逆臣長髓彦を討亡し給ひしかは其靈此に止りて民を惱ます因て其靈を祝らしめば忽ち安泰となるとぞ又此地の民俗毎年正月 初申の日より亥の日に至るまで食物を調へ其他の物音をも禁し靜かにす是を居籠の神事といふ

○鹿香山 木津の東十六七町を隔て鹿香山あり地は木津に屬す山上に城跡あり之を木津の城といふ此山古歌にありて續後撰集に益ら雄が小坂の道も跡絶て雪降にけり衣かせ山其他猶多し之を畧す

○小田原山淨瑠璃寺 法華寺村に在り法相眞言の二宗兼學なり一乘院に屬す天元年中多田滿仲草創し行基作の薬師を本尊とす其後義明上人再建し定朝作の彌陀九體を安置す因て九體寺と號し又秘密莊嚴院と稱す 二條天皇宸筆の額あり子院四十九宇ありし今は廢したり

○三瓶原 木津の東北一里許にある數村の總名なり古へは三日原三香原麩原三鹿原等に作れり續日本紀に天平十一年麩原離宮に行幸和銅六年麩原離宮行幸のことありて其離宮跡は岡崎村井平尾村の中間に在り瓶原わきて流るゝ泉川いつみきとてか戀しかるらんといふ歌を始め其他古歌に多くよめり

○恭仁都跡 瓶原の西より鹿香山以東は 聖武天皇の宮居跡なり續日本紀に天平十二年十二月右大臣橘諸兄をして恭仁郷を經畧せしめ十三年正月始めて

恭仁宮に御して朝を受け給ふ宮垣未だ就らず続めすに帷帳を以てすと云ふことあり

○國分寺 瓶原河原村に在り眞言宗なり 聖武帝の時各國に一箇の國分寺を建てしむ是其一なり行基を開基とす本尊は彌陀なり昔は伽藍頗る壯なり今往々遺址あり

○海修山寺 瓶原佛生寺村に在り眞言宗なり 文武天皇の勅願にして役行者を開基とす其後荒廢し左大臣藤原永手公出水郷山地二百町を施捨し僧解脱を中興とす薬師堂に薬師及び地藏毘沙門を安す文殊堂に文殊及び役行者を安す三重塔に招提寺鑑眞が漢土より將來せし佛舍利を安す奥院は解脱退院の處にして自作の十一面觀音を安す左右に解脱慈心の像を安す慈心は解脱の嗣なり南の壁に月形窓あり此處春日明神の解脱に對面せし處といふ影向松あり春日明神影向の處といふ此寺山上に在りて四面山木幽鬱なり

○岡田鴨神社 瓶原より鴨郷に至る道の傍に在り祭神は建角身之命なり山城風土記に賀茂建角身之命大和葛木山之峯に宿坐て彼峯より漸く遷りて山代國岡田の賀茂に至るとあり愛宕郡の賀茂神社は此より遷

りし者なり岡田は鳴の東の山名にて昔は銅を採りし
こと三代實録 貞觀八年六月の條下に見ゆ

○笠置山 木津川の兩岸に跨る南岸を南笠置と云ひ北
岸を北笠置といふ麓に川を隔て、兩村あり山名を以
て村名とせり南笠置は北笠置よりも峯高く溪深し叢

樹陰森岩石崔嵬なり石門あり高さ十二丈餘 東視と
いふ絶壁あり眼下の深壑幾百丈なるを知らず其他大

鼓石貝吹岩胎内潛千手瀧等の名勝あり昔天武天皇此
山に遊獵し給ふ御馬膝を屈して動かさず因て佛に祈り

佛寺を建んことを誓ひ給ひしに感應ありて御馬速か
に進む故に其證として着御の笠を石上に置き給ふ是

笠置山の起る緣由なり元弘の亂に 後醍醐天皇此山
を行宮と爲し給ふ今に其遺跡を存せり

○鹿路山笠置寺 麓より坂路八町の所に在り眞言宗新
義派なり 天武天皇の御願にして僧良辨を開基とす

本堂は石彫の彌勒佛を本尊とす護摩堂を正月堂と
號す昔は二月堂三月堂もありしに同祿の後は東大寺

に於て二月三月の修法あり彌勒石薬師石文殊石虚空
藏石等皆石面に佛像を刻せり中興は僧解脱にして山

東に其墓あり

○炭酸泉 上有市村木津川の中に在り明治初年化学家
某氏の試験にして炭酸氣及び曹達鹽鐵分を含有して

飲食物を消化し腸胃肺の病及び咳嗽に効あるを以て
官に請ふて弘く服用せしむるに至る

○童仙房 上有市村の東に在り元は廣漠なる荒蕪地な
りしが明治二年之を開墾し民居を移し遂に村落を爲

すに至る民多く陶器を業とす

○鷲峰山金胎寺 和東郷原山村の巔に在り眞言宗な
り白鳳四年役小角天竺の靈鷲山に模して開山す八嶺

は八葉の蓮華を表し釋迦嶽阿彌陀嶽彌勒嶽寶生嶽阿
閔嶽虚空藏嶽不空嶽伎樂嶽と號す其後養老六年越後

の行者泰澄 役行者の跡を慕ふて來り七堂伽藍を建
立す本堂に行基作の彌勒佛を安す多寶塔に愛深明王

を安す開山堂に役小角自作の像を安す山の絶頂を空
鉢峰といふ寶篋印塔を建てり乃ち泰澄鉢を空中に投

げ施す所の米穀を受けしが泰澄 入寂の後此鉢を此
峰に埋むと云ふ

○明神大瀧 北大河原村に在り瀑布高さ百五十丈濶さ
二間 源は伊賀國山田郡阿知より發し此に至りて瀑

布を爲し名張川に會し木津川と爲る都人只音羽瀧駒

瀧を知るのみ近畿に是の如き大瀧あるを知らず盲なるかな

○百丈山大智寺 和東郷湯舟村字小杉に在り禪宗臨濟派江州永源寺に屬す開山理有字は大有奥州の人壯年の時江州甲賀に住し常に和州安倍文殊を尊信し参拜の途次湯舟村を過ぐ一茶店に憩ふ主人此山住境なるを告ぐ理有乃ち櫃子一斗を携へ山に登り岩上に禪坐すること一千日一日側に在る大岩裂けて文殊佛現出し空中に在ること須臾にして去る理有歡喜し山を下り残櫃半斗を地に蒔く時を歴て芽を抽づること數千本遂に林を爲す今の榎木原是なり其後一字を建立し文殊像を安ず百丈山大智寺と號す檀那は山名伯耆守なり理有は明徳二年十二月十六日寂す年四十勅して大觀禪師と諡す佛殿釋迦佛は安阿彌の作

○坐禪石 方丈の東十町餘に在り高さ三十間横幅二十間頂上平方十間傍に登るべき道あり文殊岩は岩面劈裂たり布引石は岩面白くにして布の如し大鼓石は狀大鼓に似たり

京都名勝圖會

明治三十四年七月二十日 訂正

金參十錢

明治三十四年七月廿五日 再版

編纂者 志水鳩峯

發行兼 訂正者 風月庄左衛門

京都市上京區二條通衣柳角大恩寺町廿一番戸

印刷者 須磨勘兵衛

京都市下京區五條高倉西入萬壽寺町十番戸

版權所有

發賣所

中村淺吉

京都市上京區富小路三條北入

72
332

76

終

